

概要報告

実施期日	8月1日(木)
部会名	小学校 総合的な学習の時間部会

神奈川県研究主題

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

テーマ

『共生社会の実現を～だれもが過ごしやすい茅ヶ崎市に～』

提案概要

共生社会の実現を目指す基本理念として、「地球上の誰一人として取り残さない」「すべての人に健康と福祉を」「あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。」がある。そのなかで、自分たちの住んでいる町、小学校、クラスでは何ができるか考えて、実践を行った。

◎夢中に学ぶ子を目指す手立て

①今日的な課題を

どの教科であっても、教師側が学習課題に夢中になる課題の設定やシチュエーションの設定を行い、子どもたちが課題に対して多角的、多面的に物事を捉え考え議論する土台をつくれるようにしていく。

②現状や事実・リアルな声を

子どもたちにとって、実際の声や現状を確認できる状況を準備しておくことは、主体的に学び、課題を解決していくための重要なファクターとなると考える。情報収集・インタビュー・調査活動等は、抽象的な課題から具体的な課題にすることができる。

③具体化・操作化・思考の見える化

二項対立の状況や、思考ツール(矢印なども含む)などを用いて、児童の思考の「整理・つながり・深まり」を促せるよう、情報や児童の発言を整理していく。また、児童が振り返りにも活用できるような板書を目指している。

④省察・考察・自己調整の場を

振り返りでは、学習内容や活動について、次時につなげるための「自己省察・努力調整」を行う。振り返りには、次に話し合いたいことや、皆で考えたい事を記入する児童も多くいるため、学習内容を立てる際に見通しをもたせることもできる。振り返りの内容は、自分の考えたことはもちろんのこと、客観的に振り返ることで、考えや事象を比較したり視点を変えて考察したりするなど、知識の定着だけでなく、自身の考えの再構築や深めることにもつながっている。

質疑応答

- ・クラスとして、学年として総合的な学習の時間に取り組む際の留意点を知りたい。
→学年会を密に取り、情報を共有している。学校全体にも取組の周知をしている。
- ・総合的な学習の時間の全体計画について知りたい。
→形骸化している部分もあるので、児童が、どのような力を、どの程度身に付いているのかなど、情報共有を綿密に行うことで、児童の情報を得ている。
- ・他教科との関連について知りたい。
→国語や社会科で関連する事象があったが、様々な教科で「総合に使える」と児童から声があがった。

協議の柱及び協議概要

「子どもたちが主体的に学習を進めるための探究課題（材・財）の設定の仕方」

- ・各小・中学校の実践共有における質問
 - ①地域の財の把握については理解できているが、子どもたちの気持ちと教員の思いのすり合わせはどうしているのか。
→総合的な学習の時間を中心に学級経営をすること、教師が中心に課題設定を行い、そこに価値を見出し、いかにして子どもたちが主体的に活動できるようにするかが大切である。
 - ②また、教師の思いなしに、子どもたちに全て任してしまうのはどうなのか
→課題にどう出会わせるかなど、綿密に計画をすることが大切である。
- ・実践報告に対する感想・意見
 - ①担任の願いと子どもの思いをとにかく合わせていき、ずれないように、めあてづくりをすることが大切である。
 - ②子どもたちを中心に材を決めていくことは、それぞれが個別に行う活動ならば理解できるが、それに伴う環境の準備が必要であるため、現状では難しい。子どもたちと1年間取り組む中で、意見を出し合う4・5月の総合的な学習の時間を大切にしたい。
 - ③「夢中になるしかけ4選」にとっても共感した。
 - ④今日的な状況として、行事ありきの総合、例をあげると5年生では米作りをすることで、教員側の事情で活動が決まっていることがある。今日的な課題を意識することで、食糧問題につなげたり、地産地消の観点で物事を考えたり、いかにでも工夫はできると感じた。

まとめ概要

提案者が1年間を通して、子どもたちを学校目標に照らし合わせて実態を把握し、教師の願いと、子どもたちの思いを調整しながら行った教育活動は、学ぶべき事が多い、価値ある実践となった。知識、技能、表現の意識、情報収集含め、とても分かりやすかった。探究的な活動のスパイラルも、とても丁寧に整理されており、分かりやすかった。分析のツールも効果的に活用できていた。何に意識を向けているのか、分かりやすい活動の中で子どもたちは自然と主体的、意欲的に活動できていたことが分かった。